

平成27年度スーパー食育スクール事業 事業結果報告書

受託者名	山形県	実施校名	遊佐町立藤崎小学校
学校のホームページアドレス	http://fujisaki-yuza.jimdo.com/		

1 取組テーマ（中心となるテーマ：食と健康）

学校、家庭、地域の連携による、生活習慣の改善と郷土を愛する児童の育成
～ 食育推進による統合後の新たな学校づくり ～

2 栄養教諭の配置状況

栄養教諭配置人数	－
配置されていない場合の対応状況	遊佐町には、栄養教諭が1名配置されており、遊佐小学校に所属している。実践校である藤崎小学校には定期的に栄養教諭が出向き、食育指導や授業を実施している。

3 推進委員会の構成

【委員】	
大森 桂	山形大学准教授
村岡 真人	藤崎小学校校長
真嶋 敦子	遊佐小学校栄養教諭
佐藤 美和緒	藤崎小学校PTA会長
大宮 紗織	PTA母親委員代表
佐藤 正光	稲川まちづくり協会会長
大井 英夫	西遊佐地区まちづくりの会会長
佐藤 翔	J A庄内みどり遊佐営農課 営農指導員
土門 貢	稲川地区食生活改善推進員
高橋 享子	西遊佐地区食生活改善推進員
金子 圭子	生産者ぐみの実代表
小関 真理子	県教育庁スポーツ保健課主査
前田 直人	庄内教育事務所指導主事
高橋 務	遊佐町教育委員会教育課長
佐藤 健太郎	遊佐町教育委員会指導主事
高橋 まり子	遊佐町教育委員会総務学事係
後藤 司	藤崎小学校教頭
吉田 ひとみ	藤崎小学校食育担当

4 連携機関及び連携内容

連携機関名	連携内容
山形大学	調査、分析、評価、栄養・健康指導、講演会 等
J A庄内みどり遊佐支店	出前授業、学校田等支援、資料提供、体験活動
食生活改善推進員	地域の食材を活かした調理指導 等

5 実践内容

事業目標
<p>1 生活習慣（早起き、朝食、活動（躍動）、早寝）の改善</p> <p>○朝食内容の改善など基本的な生活習慣を身につけさせ、自ら進んで生き生きと活動できる児童の育成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動量の増加：昨年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の県平均、本校平均を上回らせる。 ・朝食摂取率の目標値を100%とする。 ・朝食内容の改善・充実：栄養バランスのよい朝食（主食・主菜・副菜（汁物））を摂る児童

の割合を向上させる。

- ・個々の児童に合わせた学校給食の提供や食事指導により、栄養バランスや量を考えて食事する力を向上させる。

2 郷土を愛する児童の育成

○郷土を愛し、心豊かな児童の育成と家庭における「食」の充実を目指す。

- ・家族一緒に食事を摂る回数を増加させる。
- ・家庭における地場産食材を使った食事提供回数を増加させる。
- ・農作物の栽培体験や親子料理教室等を通して、郷土愛を深めるとともに、家庭における「食」の意識改革を図る。

評価指標

○児童の生活習慣の改善

- ・朝食摂食率の向上
- ・朝食内容の改善（主食・主菜・副菜（汁物）のバランス）
- ・活動量（運動量、歩数、総消費量、活動時間）の増加
- ・個々の児童の体格に合わせた食事摂取量の理解促進
- ・骨密度の改善に向けた栄養バランスを考えた食事メニューの充実

○郷土を愛し、心豊かな児童の育成と家庭における食の充実

- ・家族一緒に食事の回数の増加
- ・家庭における地場産食材を使った食事や地域の食文化に親しむ機会の増加

評価方法

- ・生活実態調査の実施と検証
- ・体力・運動能力、運動習慣等調査の実施と検証
- ・活動量測定等の実施と検証
- ・骨密度測定の実施と検証
- ・学校評価（家庭での食生活）の実施と検証

評価指標を向上させるための仮説(道筋)

○食に関する自己管理能力の育成について

- ・小学校6年間を通じた食育推進計画を構築して各学年の発達段階に応じた食に関する指導を系統的かつ計画的に食育の推進を図ることで、学校としての食育の取組の更なる充実と児童の食に関する自己管理能力の育成につながるであろう。

○生活習慣と運動習慣の改善について

- ・食生活を含めた生活実態調査や活動量調査等のデータをもとに山形大学において分析を行い、その結果を児童への食に関する指導や家庭への啓発に活用しながら「早起き、朝食、活動（躍動）、早寝」の実現を目指すことで、児童の生活習慣や運動習慣が改善されるであろう。

○地場産物の活用率の向上と地域の食文化の理解促進

- ・食物の栽培や調理等の体験活動、生産者や食生活改善推進員等との交流、各学年PTAによる親子料理教室等を充実させるとともに、その取組の成果を家庭や地域に発信していくことで、朝食の摂食率向上とメニューの充実、家族と一緒に食事を摂る機会の増加が期待できるであろう。

実践内容

【具体的な取組】

1 生活習慣の改善（早起き・朝ごはん・躍動・早寝）

◆栄養教諭や専門家による、児童への生活習慣及び食生活に関する指導の計画的・継続的な実施

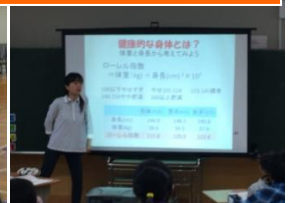
栄養教諭による栄養指導



地場産食材活用した給食を通じた指導



大学と連携した生活習慣についての授業



◆児童の実態調査の計画的な実施

家庭と連携したライフコーダによる運動量の測定 9/2~10 11/6~12 11/5~11



骨密度・体組成の計測
年2回実施

◆運動への意欲を高め、日常化につなぐ体力向上の取組み（通年）

時間と場の工夫による運動機会の確保



地元高校運動部との交流

2 郷土を愛する児童の育成

◆地域講師を招いての学校菜園や学校田での野菜や米等の栽培体験活動（通年）

パプリカ農家の見学



サツマイモの苗植え

学校田での田植え



ポップコーンの収穫

◆収穫した食材や地域の食材を活用した食体験活動の実施（5月～10月）



大豆→豆腐づくり



魚→さばく→食する



米→米粉づくり



庄内柿→干柿づくり

【その他の取組み】

- ・生活習慣及び食生活に関するアンケートの実施と分析（7・12月）
- ・教職員対象のスーパー食育ワークショップの開催（5/7・8/7）
- ・メディアコントロールにかかわる子育て講演会（6/27）
- ・藤崎っ子カルテ（給食残食調査）の実施 ・親子料理教室の開催 ・朝ごはん簡単レシピ集の作成

6 成果

○「児童の生活習慣の改善」「家庭での食の充実」「郷土への愛着を高める」ためには地域や家庭と共通理解を図ることが最も大切な基盤となると考え、年度当初から事業の趣旨や取り組みについて情報発信を行った。取り組みの様子や成果をさまざまな形で発信したことで、家庭や地域において本事業に対する理解が進み、協力体制の整備につながった。保護者による学校評価においても昨年度に比べて、「学校と地域の連携」が大きく向上した。

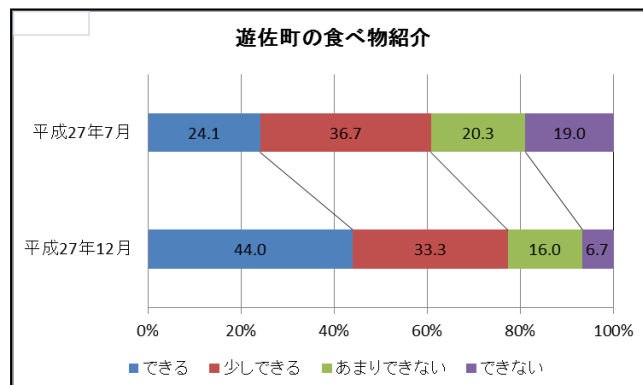
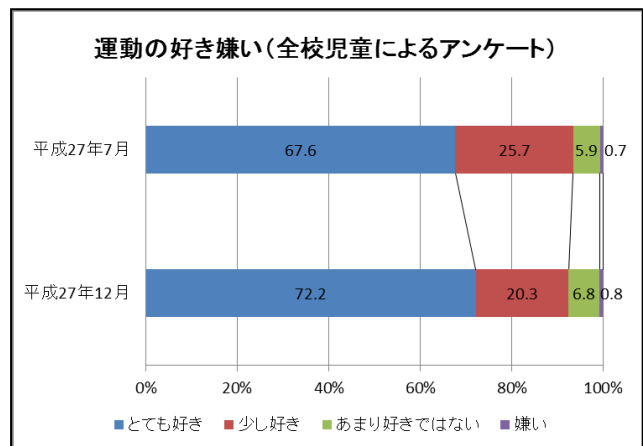
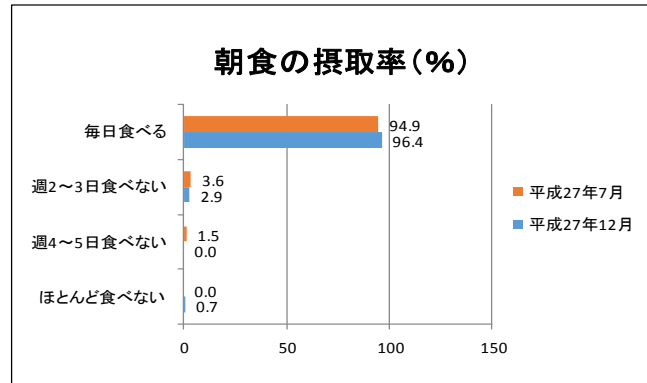
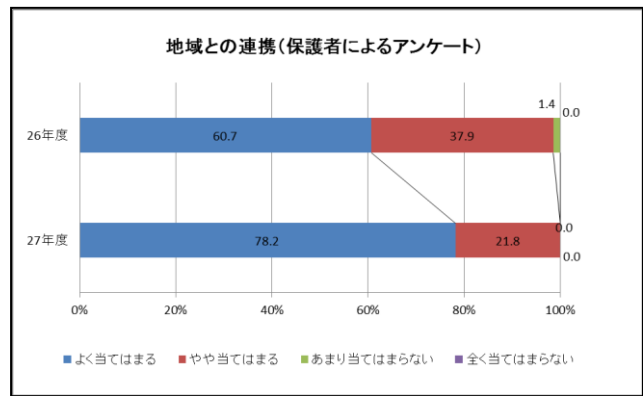
○低学年においては、事後に朝食の欠食率が0%となった。高学年に関しては、事後に「ほとんど食べない」と回答した児童も若干いたが、全体的には、「毎日食べる」と回答した児童が事前事後ともに9割以上を占めている。

○骨密度測定やライフコーダ（活動量計）による運動量の測定により、児童一人一人が、現在の自分の体や運動の状況を知る機会となった。さらに、地元高校の新体操部や一輪車選手との交流、5分間走や運動強調週間等の取り組み等により、児童の運動に対する関心や意欲が高まった。その結果、昨年度に比べ、雲梯や一輪車で遊ぶ児童が多くなり、全校児童欠席なしの日も増えた。

○例年実施している長期宿泊体験学習において、今年度は本事業との関連を図り、「ざっこしめ（ニジマスのつかみ取り）」や「そば打ち」、「湧水めぐり」等、「地場産食材」と「食育」の視点から取り組み、食を通して、自分たちの地域（郷土）のよさや自然の恵みに感謝する機会となった。その他にも親子料理教室などの新たな取り組みによって、児童の意識が高まり、地場産物への興味関心が増すなどの効果が見られた。

○活動量や骨密度と、体力運動能力や食事との関係についての指導や、各学年PTAの主体的な取り組みを通して、児童が自己の運動習慣を見直したり適切な食生活について考えたりする機会を設けることができた。

本事業における地域と連携した様々な食育を通して、郷土料理や家庭の味に対する保護者の意識が喚起され、さらに家庭における料理の伝承に対する意欲の向上にもつながった。

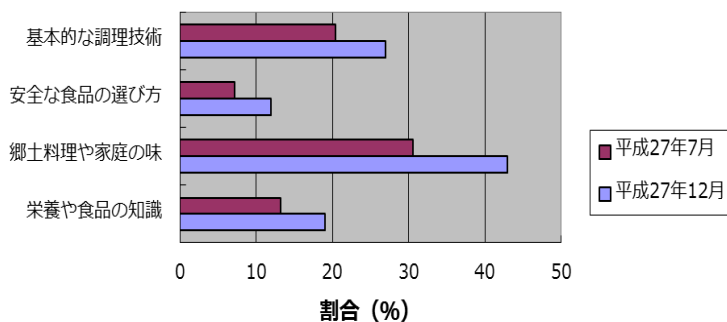


○食育を日常的に実践したことや栽培・収穫の体験、収穫した作物を学校給食や調理に利用したことによって、子どもたちの食への関心を高め、意識の向上につながり、生活の中や給食の時間の中で食に関する話題が増えた。

○生活習慣及び食生活に関する児童の実態を踏まえ、活動のね

らいや児童につけたい力を共通理解しながら学校教育全体で食育に取り組んだことで、教職員や保護者の意識が高まり、課題解決のために協働する体制を構築することができた。

家庭で食に関して子どもに伝えたいこと



7 スーパー食育スクール事業の取組状況の情報発信

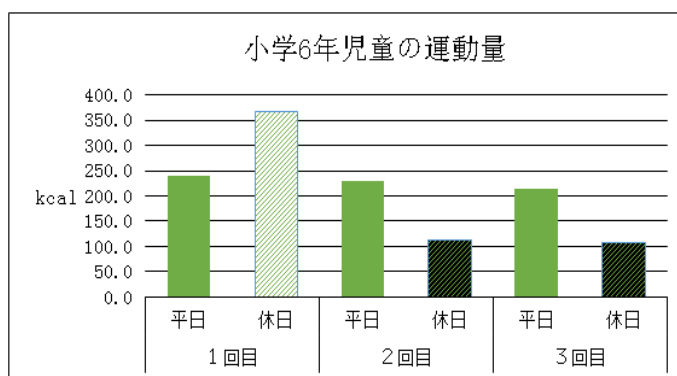
- ・学校だよりや食育だより、学校ホームページ等で取り組みの状況について随時情報を発信した。
- ・常時来校者にも情報発信できるよう、校内に掲示スペースを設けた。
- ・町広報により町民に対して情報発信を行った。
- ・県教育委員会主催食育フォーラムにおいて事例発表を行った。
- ・遊佐町食育推進委員会にて事例発表を行った。
- ・県政テレビ「サンデー5」において、活動の様子を全県下に放送した。



8 今後の課題

●食育の取り組みの成果を検証するために評価方法や項目について吟味してきたが、「運動能力の向上」など成果を検証するのが難しい項目もあり、今後も継続して取り組んでいく必要がある。

●活動量計（ライフコーダ）の活用等により、児童の運動に対する意欲が高まり、特に1回目の休日は、地域のウォーキング行事に参加したため、どの学年においても運動量が高かった。いずれの学年においても休日の運動量が平日よりも顕著に低く、休日を活動的に過ごす手立てが必要と考えられる。



●「1日のメディア視聴やゲームの時間」について児童の意識は高まってはいるが、家庭による望ましい生活食習慣の確立に向けて、今後も継続して取り組んでいかなければならない。

●生涯にわたり健康で望ましい食習慣を身につけるための力をつけていく必要がある。そのために、今年度の成果と課題を踏まえて、食育全体計画や年間指導計画の見直しを図り、知識だけでなく、実践できる力をつけられるような食育に引き続き取り組んでいきたい。

●子ども達の郷土を愛する心を育むために、地域の人材を活用しながら食にかかわる体験活動の一層の充実を図っていく。

●全体指導だけでは生活習慣や食習慣を改善することが難しい児童もおり、さらに栄養教諭等と連携しながら、個別指導を行っていく。